

獣医学科

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（令和９年４月１日から施行）

獣医学科の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の達成を目指し、崇高な倫理観と高度な獣医療技術を有する獣医師をはじめ、生命と福祉に関わる科学者としての社会的使命を遂行できる高度専門職業人を育成するため、以下に掲げる考え方にに基づき、教育課程を編成・実施する。

１．教育課程の編成に関する基本的な考え方

- (1) １年次を中心に教養や倫理観の涵養を図るとともに、生物学、化学、生態学等の生命の基礎となる知識を身に付けることができるよう「基礎教育科目」を配当する。
- (2) 専門教育（専門科目）は、「基礎獣医学系（組織・解剖学、生理・生化学）」、「病態獣医学系（薬理・毒性学、微生物学、病理学、免疫学）」、「生産獣医学系（家畜衛生学、産業動物臨床学）」、「臨床獣医学系（小動物臨床学）」及び「環境獣医学系（公衆衛生学、実験動物学）」の５つの系統に分け、専門的な学問体系や多様な知識・技能・価値観を身に付けられるよう、順次性に配慮し効果的に編成する。
- (3) １年次から２年次を中心に「基礎獣医学系科目」並びに「共通科目」及び「選択科目」の一部を配当し、獣医学及び生命科学に係る基礎的な知識、獣医倫理・動物福祉を理解するとともに、獣医学の全体像と獣医師の役割を明確に把握することで、早期から獣医学の学びと社会との接続を意識できる機会を提供する。
- (4) ２年次から４年次を中心に「病態獣医学系科目」及び「生産獣医学系科目」において、微生物と微生物が引き起こす病態、伝染性等について理解する。
- (5) ３年次以降を中心に「生産獣医学系科目」、「臨床獣医学系科目」及び「環境獣医学系科目」を置き、小動物臨床獣医師、産業動物臨床獣医師、家畜衛生獣医師又は公衆衛生獣医師等、獣医師や生命・福祉に関わる科学者としての高度な専門性を身に付けるとともに、実践力を養成する。
- (6) 獲得した知識や技術を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげる能力や主体的かつ自律的な態度を育成するため、特論、卒業論文等の科目を設置する。また、国家資格「獣医師免許」取得に当たり必要となる知識や理解を総合的に再学修する機会を提供する。

２．教育課程の実施に関する基本的な考え方

- (1) 各授業科目について、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従い、設計する。また、到達目標、授業計画、実施方法、成績評価基準等を明確にするとともに、

シラバスを通じて周知する。

(2) 主体性及び自律性を育成するため、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表、PBL 等）を積極的に取り入れるなど、授業形態及び指導方法を工夫する。

(3) 教育課程の履修を通じて培うコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び社会的な課題に対応するための問題発見・解決能力並び実践力及び創造的思考力をより一層涵養するため、特論、卒業論文等を配当するとともに、その授業形態及び指導方法を工夫する。

(4) 知識及び技術を効果的かつ効率的に修得するため、PC、タブレット等の ICT を活用するとともに、獣医師や科学者として高い水準で職務を遂行するための ICT 技能を修得できる機会を提供する。

3. 学修成果の評価に関する基本的な考え方

別に定めるアセスメントプランに基づき、学修成果の把握及び検証を行い、教育、学修支援等の改善・向上を図る。